

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	腹腔洗浄細胞診陽性膵癌に対する手術治療の意義の検討		
2. 対象患者	2007年から2018年の間に、当科において膵癌に対して手術をされた方を対象とします。		
3. 対象となる期間	2007年1月1日～2018年12月31日		
4. 実施診療科等	弘前大学医学部附属病院 消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科		
5. 研究責任者	氏名	脇屋 太一	所属 消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	本研究は弘前大学のみで実施されます		
7. 研究の意義	<p>膵癌取扱い規約(ルール)では、膵癌手術における腹腔洗浄細胞診について定義されています。腹腔洗浄細胞診とは、膵臓の癌細胞がお腹の他の部位に漏れて広がっているか否かを調べるものです。これまで、膵癌手術患者において腹腔洗浄細胞診陽性例は陰性例よりも予後が不良であるという報告がある一方で、陽性例と陰性例の予後は同等であるという結果も散見されます。また、腹腔洗浄細胞診陽性膵癌を手術した場合の、合併症などの手術後短期成績を焦点とした報告はありません。すなわち、腹腔洗浄細胞診陽性膵癌に対する手術治療の益と害のバランスを検討することは現状困難で、その意義については一定の見解が得られていません。</p> <p>仮に、腹腔洗浄細胞診陽性膵癌に対する手術治療は益よりも害の方が大きいとすれば、他治療方法を選択することが合理的です。その選択は、膵癌患者の治療成績や生活の質の向上への貢献が期待されます。以上より、腹腔洗浄細胞診陽性膵癌に対する手術治療成績を明らかにする意義があります。</p>		
8. 研究の目的	腹腔洗浄細胞診陽性膵癌に対する手術治療成績を明らかにすることを目的とします。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	通常診療の範囲内で得られた既存の情報を解析します。新たに検査や治療を追加するものではありません。カルテを利用し、病歴、年齢、性別、血液検査、画像検査、手術関連情報、腹腔洗浄細胞診検査、切除膵の病理検査、術後経過などの情報を使用します。腹腔洗浄細胞診陽性例と陰性例にわけて、術後短期成績(術後合併症)および術後長期成績(再発率や生存率)を比較します。		
10. 個人情報の保護	患者さんの名前をふせて(匿名化)、臨床情報を使用します。匿名化するための対応表は入室管理された部屋の鍵のかかるキャビネット内で保護をして講座内に保存されます。患者さんが解析対象となることを望まない場合、研究対象から除外します。診療情報の利用について拒否の申し出をされた場合であっても、当科での診療において何ら不利益を受けません。同意は、いつでも理由を問うことなく、自由意思で撤回できます。ただし、拒否の申し出をされた時点で既に学会等で成果を公表している場合、公表済の内容についての修正はできません。		
11. 利益相反に関する状況	本研究は通常の診療範囲内で行われるため、特別な資金源を必要とするものではありません。起こり得る利益相反について特記すべき事項はありません。		
12. 連絡先	消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科 脇屋太一		
	電話	0172-39-5079	FAX 0172-39-5080